開業支援フリーマガジン

VISIONARY

JOURNAL

5

doctor's voice (V) | 内科・消化器内科 | 小児科・小児循環器科 | ペインクリニック外科・リハビリテーション科 | 眼科・小児眼科



Vedrug
VALOR DRUG STORE



VISIONを持つ、
ということ。

より良い未来を描き、自分自身で創っていく。

医師の夢や使命、患者さんとの向き合い方、地域社会への貢献、

家族と生活、恩師や仲間との関係、健康、資産、価値観、

これからどのような人たちに出会い、どのように時間を使うのか…。

人生のさまざまな構成要素から成る理想の人物像に向かって生きる、

「VISIONARY」= 明確な将来の展望・構想を持つ人。

「V・drug」で開業を決めたドクターたちの本物の声、視線の先が、

新しい一歩のきっかけやヒントになるかもしれない。

CASE STUDY 1

内科・消化器内科 × V・drug

ひじかた
内科・消化器内科クリニック

土方 康孝 先生

Profile

愛知医科大学医学部卒業。同大学附属病院で臨床研修後、蒲郡市民病院消化器内科、愛知医科大学病院消化器内科、国際医療福祉大学熱海病院などで勤務。愛知医科大学病院消化管内科講師を経て、多治見市内のクリニックで内科院長を務め、開業。

愛知・春日井市

信じた道を、前へ

一人ひとりと向き合い、納得できる医療を

「自分のやりたい医療」を求め、遠回りの先でたどり着いた開業。

開業して良かったですね。大学病院に勤めていた頃から開業は考えていましたが、雇われ院長として働く中で、自分のやりたい医療とは違う方向へ進んでいると感じ、「そろそろ自分でやった方がいいのかな」と本格的に動き出しました。準備期間は2〜3年。医療のことしかやってこなかったので右も左もわからず、最初に相談したコンサルタントの型にはまった進め方に「それが本当に自分の理想なのか？」と疑問を感じていました。そんな中で出会ったのが「V・drug」です。担当者さんは、僕が大切にしていることを聞き、「こういう方法もありますよ」と一緒に考え、つくり上げていく。その姿勢に安心感がありました。最初は名古屋市で計画を進めていましたが、途中で白紙に。「これからどうしよう」と地獄に落とされたような気持ちでした。その後、提案してもらったのが現在の春日井市です。自宅から通いやすく、前職の病院があった多治見からも近い。実際、多治見から来てくださる患者さんもいて、ありがたいです。医療モールなので、患者さんを隣の心療内科へ案内できることもメリットだと感じています。

患者さんの話をしっかり聞く父から受け継いだ、僕の医療。

僕のやりたい医療は、「一人ひとりの話をしっかり聞いて、ちゃんと納得して帰ってもらう」ということ。それがクリニックの役割だと思っています。そのために開業したクリニックなので、ある程度は実現できているのかなと思います。患者さんが増えて忙しくなるときほど、「初心に帰らなきゃいけない」と自分に言い聞かせています。父も内科の開業医で、温和な人でした。小さい頃から患者さんの話をよく聞いていた印象があり、それが自然と自分にも染み込んでいるのかもしれません。スタッフも、僕が患者さんと接する姿を見て、自然と同じような空気感になっているのかなと思います。開業を後押ししてくれた妻の存在も大きいです。僕以上に開業に前向きで、今も事務やお金のことなど裏方を担い、「あなたは医療だけに専念できるように、私が頑張る」と支えてくれています。僕が患者さんと向き合うことに集中できるのは、妻のおかげでもあります。



診断に責任を持つために、必要な設備を選択する。

クリニックの設計では、内視鏡検査を受ける患者さんがリラックスできる空間づくりにこだわりました。胃カメラと大腸カメラの両方を希望される方も多いので、内視鏡室を広めに取り、配線にも配慮するなど、これまでの経験を生かして検査しやすい環境を整えました。一方、院長室は漫画喫茶の個室くらい（笑）。僕は座る場所があれば十分なので、その分スタッフの休憩室を確保しました。消化器内科として、CTも外せませんでした。診断が曖昧なまま「何かあったら総合病院へ行ってください ね」と患者さんを帰すのではなく、できる限り自分で診断に責任を持ちたい。そのためにもCTは必要だったんです。その場で診断できることは患者さんの安心にもつながりますし、「CTがあって良かった」と思う場面は何度もありました。



まだ40点。自分を信じて、理想の医療へ近づけていく。

今診察している患者さんをこれから10年、20年と診ていく責任がありますし、新たな患者さんにも「また来よう」と思ってもらえるよう、信頼関係を築いていきたいです。自分の理想を100点とすると、今はまだ40点くらい。診療時間やスタッフの勤務体制を調整するなど、患者さんのメリットにつながることは、どんどん進めています。困ったことがあれば、開業経験の豊富な「V・drug」にすぐ相談できる。一緒に続けていく味方ができたことは、すごく心強いです。これから開業する先生に伝えるなら、「自分を信じてやる」ということですね。僕自身の後悔は「あと5年早く開業しておけば良かった」と思うくらい。10年、15年と続けられる体力を整えながら、日々勉強を重ね、僕もクリニックも徐々にアップデートして、自分が思い描く医療に近づけていきたいと思っています。

内科・消化器内科・
肝臓内科・内視鏡内科・内分泌内科

ひじかた
内科・消化器内科クリニック

開業日 2025年2月14日

Add. 愛知県春日井市高山町1-18-5
名鉄バス「高山口停」徒歩1分
Tel. 0568-37-3371
Web. hijikata-clinic.com





CASE STUDY 2

小児科・小児循環器科 × V·drug

たつのこキッズクリニック

江竜 喜彦 先生

Profile

藤田保健衛生大学（現 藤田医科大学）医学部卒業。同大学病院、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センターなどで勤務。NICUや小児循環器、地域医療の現場で幅広い経験を積む。豊川市民病院、豊田市内の病院で小児科部長を務めた後、開業。

愛知・東郷町 | 自分の選択を、正解に

コツコツやれば、伝わる。開業3年目、次のフェーズへ



一度は断念した土地が、5〜6年後、開業の場所に。

今の場所「V·drug東郷西店」の敷地は、実は5〜6年前にも「ここで開業できないか」と相談した土地なんです。当時は実現に至らなかったのですが、その後、とある開業コンサルの方から偶然この土地を提案されました。「そこは断念したよ」と話したら、「もう一回チャレンジします」と交渉していただき、今度は話が進むことに。自宅から近く、薬局も、広い駐車場もある。東郷町にも知人を通じて縁を感じていた頃で、ここでの開業を決めました。そもそも僕は、最初から開業医を目指していたわけではありません。大学病院や関連病院など、いくつかの環境で勤務するなかで、少しずつ開業を意識するようになりました。そして、コロナ禍などでいろいろと環境が変わっていくなかで一念発起。もともと開業に反対していた妻も、陰ながら通信講座で医療事務の資格を取得し、背中を押してくれました。院内には妻と子どもが大好きな深海魚のイラストを散りばめ、江竜にちなんで「たつのこキッズクリニック」と名付けました。

2軒だった小児科が4軒に。開業後の2年間は悪戦苦闘。

土地の話をいただいた当時、東郷町の小児科は2軒。長く診療されている先生方が中心で、そろそろ世代交代の時期かなと思っていました。ところが、開業までの約2年間に1軒が新しい先生へ承継され、さらにもう1軒が新規開業。人口は変わらないのに、小児科は4軒の競合状況になりました。予防接種は住民登録のある市区町村での接種が基本で、そこで受診し、その後もかかりつけになるケースが多いんです。うちは東郷町の西端にあるため、立地的にも不利でした。今だから笑って話せますけど、最初の2年間は本当に大変でした。夢と希望にあふれていた開業前は、「自分のやりたい医療、自分のできる医療に全力を尽くす」という考えでした。でも実際に開業してみると、厳しい現実に直面し、クリニックの集患施策に力を入れる必要がありました。それまで見たこともなかったInstagramを自分で始め、予約制度もいろいろ変えました。診療についても、専門外は専門の先生に任せるスタンスから、患者さんに求められるなら専門外のことも勉強してみよう、と考えるようになりました。

ようやく軌道に乗るまで、続けるなかで見えたもの。

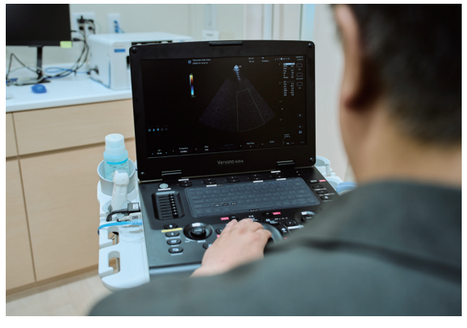
3年目に入り、集患が安定し、事業の見通しもつくようになりました。Instagramや予約制度もさることながら、ありがたいことに「友だちから江竜先生がいいよと聞いて」という方が増えています。患者さんの4割ほどが東郷町外で、周辺の名古屋市緑区・天白区、日進市、豊明市、みよし市、遠くは前職の病院があった豊田市や瀬戸市からも受診されています。最近の開業傾向として、小児科医として10年ほど経験を積んで独立する方が多いようですが、僕は20年以上、重症の子どもたちを診てきたという自負があります。その経験を生かし、親御さんの質問にきちんと答え、病気について理解してもらいながら丁寧に診る。それが今の少子化の時代にも、僕の診療スタイルにも合っていると、大変だった時期があったからこそ気づきました。結局、ちゃんとコツコツやっていれば、わかってくれる人にはわかってもらえる。それまでには2年、3年かかりますね。最初は、うまくいかない理由を周りのせいにしていました。でも、土地も診療内容も自分で決めたこと。それなら「自分で正解にしていく」と覚悟を決め、ようやく自分らしさが戻ったことで、クリニックにも良い影響が出てきたのだと思います。

これまでの恩師との出会いから、小児科医として大事にしていることが2つあります。一つは、病気の子に罪悪感を持つお母さんの気持ちに寄り添い、「必ず笑顔で帰す」ということ。もう一つは、「医者は絶対に諦めてはいけない」ということです。「V·drug」の担当者さんは仕事が早く、自分の味方になって動いてくれます。薬局の対応も柔軟で、事業規模の大きな企業と組むメリットを感じています。今後、感染症が流行して患者さんが増え、忙しくなったときに、今の診療の質をどう維持していくかが僕の課題です。最初の2年間は目の前のことで精一杯でしたが、ようやく、そんな先の話もできるようになってきました。







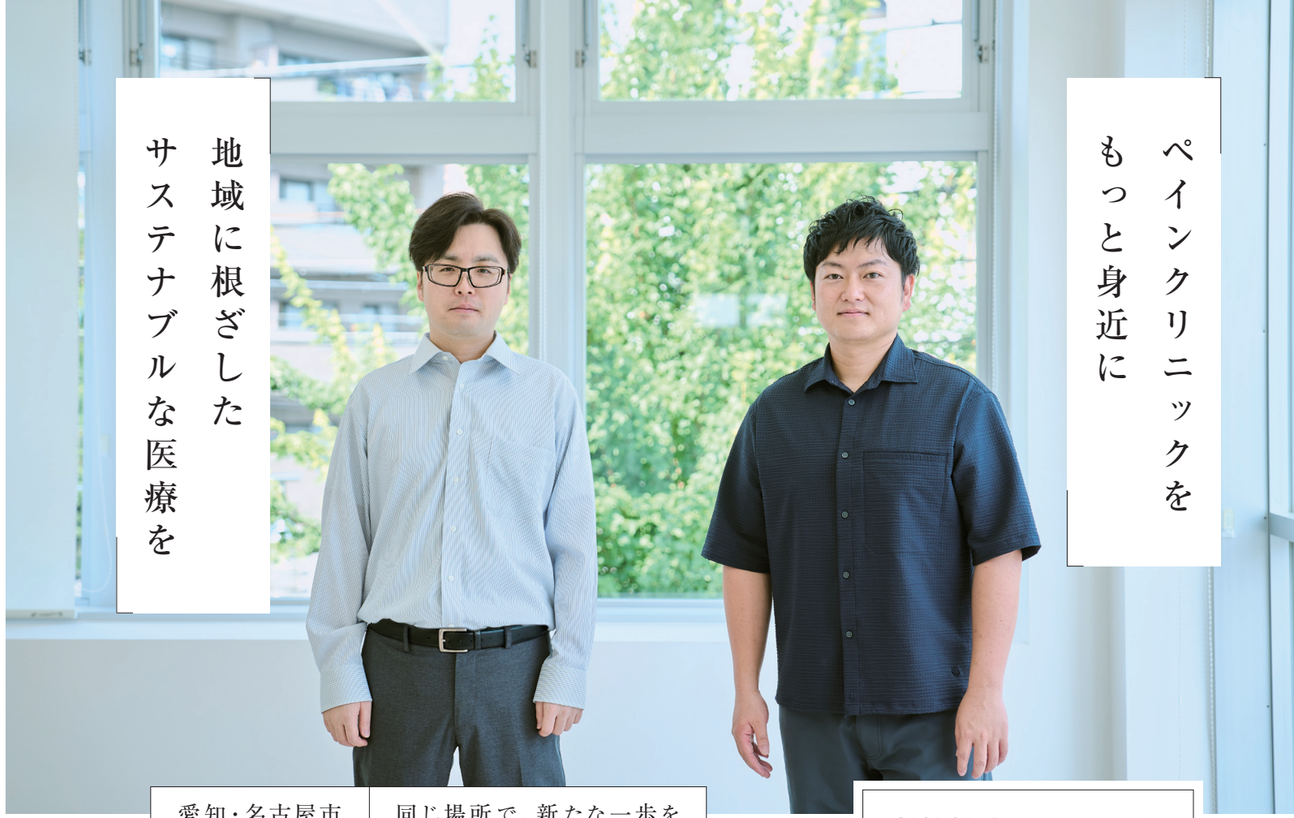


小児科・小児循環器科

たつのこキッズクリニック

開業日 2024年4月17日

Add. 愛知県愛知郡東郷町兵庫2-2
東郷町巡回バス「三ッ池停」徒歩1分
Tel. 0561-56-6551
Web. tatsunoko-cl.com



ペインクリニックをもっと身近に

地域に根ざしたサステナブルな医療を

愛知・名古屋市 | 同じ場所で、新たな一歩を

CASE STUDY 3

ペインクリニック外科・
リハビリテーション科 × V・drug

痛みと向き合うペインクリニック

小川 慧 先生

Profile

藤田保健衛生大学（現 藤田医科大学）医学部卒業。同大学病院麻酔・侵襲制御医学講座助手、助教として勤務。藤田医科大学岡崎医療センター麻酔科講師を経て、開業。

眼科・小児眼科 × V・drug

たけなか眼科

竹中 崇也 先生

Profile

名古屋大学医学部卒業。同大学医学部附属病院、碧南市民病院、豊橋市民病院、みよし市民病院を経て、幼少期からの地元である名古屋市天白区原で開業。

40歳をひとつの節目に。それぞれが選んだ、開業への道。

小川 恩師が赴任当初からやっていたペインクリニックで、6年前から教わるようになったのがきっかけで開業への意識が芽生え、実際に動き始めたのは3年くらい前です。40歳までの開業を目指し、そこから逆算して場所を探し始めました。最初は日進市で戸建て開業を考えていたんですが、うまくいかなくて。テナントに切り替え、同じく開業医を目指す友人から教えてもらったのが、「V・drug 天白原店」でした。

竹中 僕も3年くらい前です。小川先生ほど計画的ではありませんが、「40歳くらいまでには」という感じでした。近所に住んでいるので、いい物件があったら動こうと思っていたところ、「開業医募集」という看板を見つけて、思い立って連絡したんです。眼科は勤務医だけでなく、研究や開業などいろいろな道があります。最初から開業一本だったわけではなく、その時々で考えながら、社会情勢なども含めて「開業なら、そろそろだ」と決めました。

「通い続けられる」を大切に。二人がこの場所を選んだ理由。

小川 場所を選ぶうえで大切にしたのは、勤務していた病院からある程度近いことです。ペインクリニックは、まだドクターが少ない領域です。僕が診られなくなると、これまで診てきた患者さんが通う先に困ってしまう。だから、患者さんが通ってこられる場所に開業したいと思っていました。もう一つ重要視したのは、広さです。大学病院で診療するなかで、痛みの治療とリハビリテーションを併用したいという思いが強くなっていました。ここでは、きちんとリハビリができる部屋をつくり、診察室、検査室、処置室の動線にも配慮しました。

竹中 僕の場合は、この辺りがほぼ地元なので、土地勘があって地域の雰囲気もわかっています。眼科は検査によって、その後に車を運転できなくなることもあります。ここは地下鉄の駅から徒歩圏内で、目の前にバス停があり、好条件な立地でした。





医療だけではない難しさも。一つずつ越えて、理想をかたちに。

竹中 3カ月後に開業を控え、今のところ一番大変だったのは人事です。看護師さんがなかなか集まらなくて苦労し、勤務医時代には経験していない経営の難しさを早速感じています。

小川 僕は開業して2週間が経ったところです。一番大変だったのは銀行融資ですね。ペインクリニック自体がまだあまり知られていなくて、銀行側にも売上がどれくらい見込めるのかというデータが少ない。コンサルタントから紹介を受けた銀行にもいくつか断られ、最後は自分で3〜4行にあたりました。

竹中 眼科では、銀行融資は問題なく通りました。眼科の開業支援実績が豊富なコンサルティング業務を行う医療機器ディーラーにも、クリニックづくりをサポートしてもらっています。

小川 開業って、医療以外に考えることが本当にたくさんありますよね。そのなかで「V・drug」は、「こちらの要望に対して最初から「できません」と決めつけることがなく、心強いサポーターになってくれました。

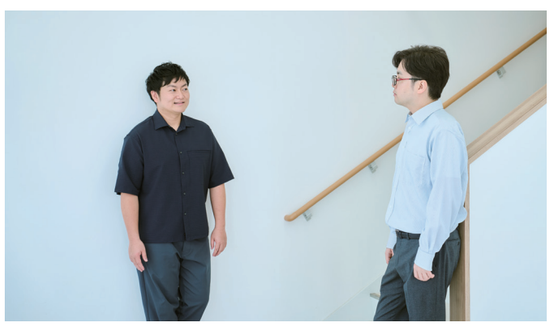
竹中 今は「V・drug」という企業自体が成長過程にあることも影響していると思いますが、こちらに寄り添い、柔軟に対応してもらえています。

スタート地点に立った今、未来へ向けて、歩みを進める。

小川 開業してみて、痛みで困っている患者さんはたくさんいると実感しています。専門的な知識とブロック治療などの設備による強みを生かし、まずは日々の診療と経営に取り組んでいきたいです。その先、5年後、10年後には分院を展開するなど、東海圏である程度の規模を持って、痛みの治療をきちんと行えるペインクリニックをつくり、その認知度を高めていきたいという野望もあります。

竹中 僕は、何かものすごく大きな目標があるというより、一歩一歩、着実に。患者さんに来ていただけて、スタッフもみんないい雰囲気で、なるべく辞めずに長く働いてくれる。そして、自分自身の健康も大切にしながら、この地域で無理なく続けていけることが大事だと思っています。クリニックも薬局も競合の多い地域なので、「V・drug 天白原店」があることで人の流れが生まれ、ドラッグストアのお客様にもクリニックの認知度が高まることには期待しています。クリニック同士で紹介し合えることもメリットですね。

小川 患者さんが「ここに来れば安心」と思える、地域の医療に取り組んでいきましょう。



ペインクリニック外科・
リハビリテーション科・内科

痛みと向き合うペインクリニック

開業日 2026年7月6日

Add. 愛知県名古屋市天白区原2-907 2F
名古屋市バス「下原停」徒歩すぐ
Tel. 052-838-7508
Web. itamitondeke.com

眼科・小児眼科

たけなか眼科

開業日 2026年10月1日

Add. 愛知県名古屋市天白区原2-907 2F
名古屋市バス「下原停」徒歩すぐ
Tel. 052-746-0401
Web. takenaka-eye.com

DOCTOR FRIENDLY

「V・drug」はあなたの立場に寄り添って開業支援をしています。
未来を共創し、たくさんの「ありがとう」をいただきませんか？

V・drug people

INTERVIEW

中部薬品 医療本部 本部長
中村 哲

×

中部薬品 開発本部 部長
中陳 歴展



写真左から、中陳、中村

開業から、ずっと続いていく
もっといい未来まで

主役は、開業するドクター。
積み重ねた知見を、次の力に。

中村　「V・drug」というとドラッグストアのイメージが強いですが、薬局事業には30年近い歴史があります。特にここ5年ほどは出店を大きく拡大し、経営状態も良好です。また、クリニック誘致も昨年約30件。今年も同じくらいのスピードで進んでいます。クリニック誘致された新規開局の数は、全薬局・ドラッグストアの中でもトップレベルの実績を誇ります。

中陳　クリニック誘致に力を入れ始めた頃は、ドクターとのつながりも少なく、手探りで信頼関係を築いていきました。ずっと大切にしてきた基本姿勢は「主役は、開業されるドクターである」ということです。先生にとって一世一代の開業ですから、私たちがどれだけきちんと伴走できるか。開業は初めてのことが多く、不安もあります。それぞれの思い描く理想に寄り添いながら、伸びしろを広げるため、医療連携チームをはじめ開発本部が一丸となってサポートしていきます。

中村　開業後は20年、30年と続いていきますから、薬局も同じだけ長くお付き合いしていくことになります。診療科によって、薬局に必要な薬や、患者さんへの対応は異なります。これまで培ってきた薬局運営のノウハウを生かし、さまざまな経験を重ねる中で、ドクターの声も取り入れながら柔軟な対応力を高め、協力体制を深めています。

中陳　開業されたドクターから評判を呼び、次のご縁につながることも増えました。クリニック誘致の知見が蓄積され、開業支援のスピードも上がっています。建築費や土地についても、今の相場や過去からの流れを経験値として持っています。ドラッグストア併設、戸建て、テナントなどの出店形態によって、診療科や先生の状況に応じた提案ができる。そうした積み重ねが次への提案に生き、私たちの強みになっています。

中村　薬局運営の面でも、大きな組織だからこそできることがあります。今は「薬剤師を確保できず、薬局を続けられない」という薬局経営者の声をよく聞きます。「V・drug」は順調に薬剤師を確保できているため、都市部だけでなく郊外などでも薬局を維持しています。ドクターが長く診療を続けていく中で、安定した薬局運営で、安心感を提供していきたいですね。

地域医療の可能性を広げる
まちづくりの新しいかたち。

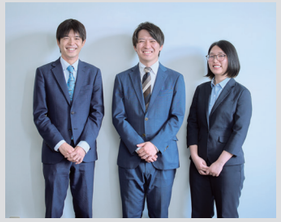
中村　以前、新しく「V・drug」とクリニックをつくった地域で、お客様から「この地域には内科が足りないから、いい先生がいたら連れてきてよ」と言われたことがありました。そのとき、クリニックと連携することで、住民の方の生活動線に入り、「V・drug」が街に必要とされる存在になれるんだと実感したんです。

中陳　私たちは出店するとき、その場所の将来まで考えます。ここにドラッグストアができて、クリニックができたら、街がどう変わっていくのか。ドクターも開業したら、その先も長い時間を地域とともに歩んでいく。私たちの長期的視点のまちづくりとも相性が良く、ドラッグストアと組むことは有効な手段だと思います。

中村　医療過疎エリアにも医療を届けたいと思っています。これからは「V・drug」だけに限らず、例えば、スーパーマーケットの隣にも医療モールをつくりたいです。グループにはホームセンターやスポーツクラブもありますから、さまざまな場所や情報を生かすことで、医療との組み合わせはもっと広げられます。

中陳　ドクターそれぞれの思いがありますので、医療人としての理念を一番リスペクトして支えていきます。10年後、20年後に「あの場所で一緒にやってきてよかった」と思える関係を、これからもっと増やしていきたいですね。

中村　医療は地域で長く続いていくものです。ドクターが引退されるまでお付き合いさせていただきながら、その街に必要な医療を一緒につくっていきたいです。



写真左から、廣田雄亮（関西エリア）、佐藤勝哉（全エリア統括）、芝田早弥（東海エリア）

医療連携チーム

薬剤師の資格や経験を持つスタッフが開業を支援します。

データで見る「V・drug」

■県別の店舗数

※2026年6月末現在

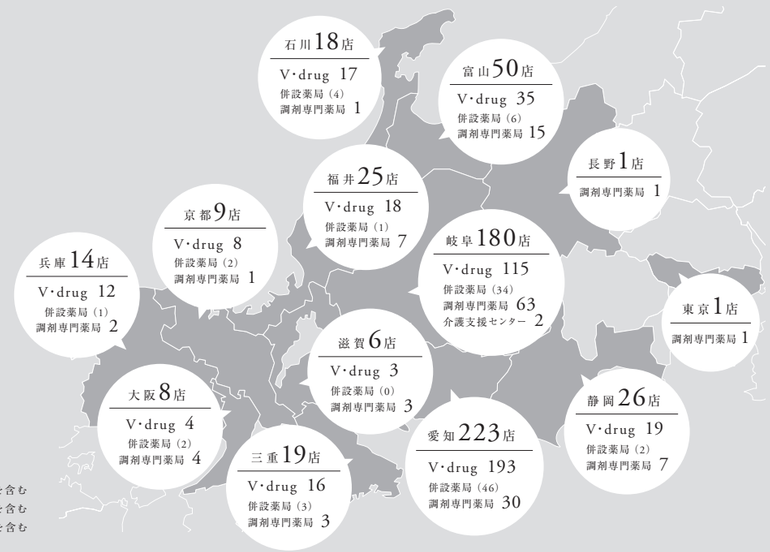
全国店舗数 **580**店舗

V・drug **440**店舗
併設薬局（101）

調剤専門薬局 **138**店舗

介護支援センター **2**店舗

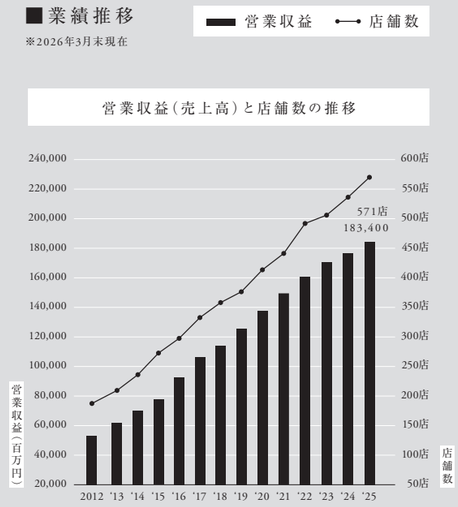
＊岐阜県の調剤専門薬局には、子会社6店舗を含む
＊愛知県の調剤専門薬局には、子会社1店舗を含む
＊大阪府の調剤専門薬局には、子会社1店舗を含む



データで見る「V・drug」

■業績推移

※2026年3月末現在

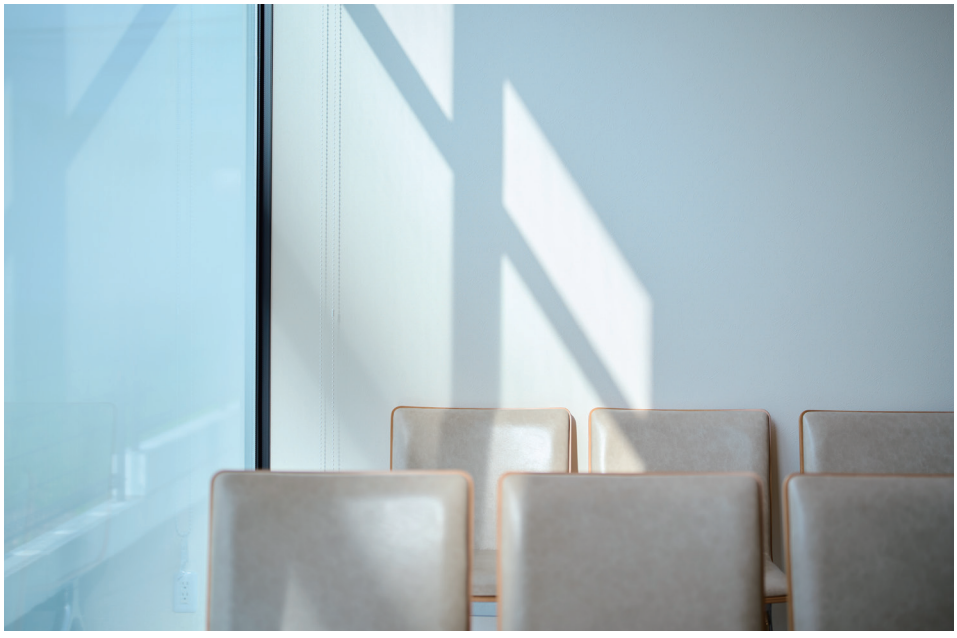


開業の流れ

職員募集
↓
広告（HPなど含む）
↓
医薬品の選定
↓
各種届出・手続き
↓
内覧会準備
↓
開業

開業の意思決定
↓
基本構想
↓
経営理念
↓
開業地・候補地の絞り込み
↓
資金調達（金融機関への打診）
↓
設計・施工
↓
開院準備
↓

Printed in Japan © 2026 CHUBU YAKUHIN Co., Ltd.



「V・drug」開業支援の特設Webページでは、さらに詳しい情報を更新中。

V　開業

中部薬品株式会社
〒507-0078 岐阜県多治見市高根町4-29
Tel. 0572-27-3911　Fax. 0572-27-3912
www.vdrug.co.jp

お問い合わせフォームからのご連絡は
24時間受け付け、順次お返事いたします。
各関係業者への連携や多岐にわたる資源を生かして
全力でサポートしますので、どんな些細なことでも、
まずは中部薬品 開発本部宛にお気軽にご相談ください。

お問い合わせ
フォーム

公式Instagram
@visionary.dr_